

奈良・興福寺旧境内（賤院地区）

- | | | |
|---|---------------|--|
| 1 | 所在地 | 奈良市登大路町 |
| 2 | 調査期間 | 一九八六年（昭和61）八月～一〇月 |
| 3 | 発掘機関 | 奈良県立橿原考古学研究所 |
| 4 | 調査担当者 | 井上義光・中井一夫 |
| 5 | 遺跡の種類 | 寺院跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 奈良時代～江戸時代 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 平城京外京の北東隅部に所在する興福寺は、藤原氏の氏寺として繁栄していたが、現在は主要伽藍を残すのみで、他の地域は官公庁や公園となっている。
昭和六三年に開催が予定されている「なら・シルクロード博」の施設の建設がこの地に予定されたことに對して、地下遺構を保存するための資料を得るため調査を行なった。調査地域は宮本長二郎氏の境内復元に |

よると賤院地区とされている所で、二間×一間三間以上の東西棟の掘立柱建物が南北に二棟ならんで検出された。この二棟の間には、一〇世紀代に廃棄された井戸があり、この内より量は少ないがフイゴの羽口などが出土したことから、こうしたものを使つた作業がこの地域でおこなわれていたことがうかがわれる。

対して、地下構造を保存するための資料を得るため調査を行なった。調査地域は宮本長二郎氏の境内復元に

木簡が出土したのは、この東西棟の建物の柱礎形を破壊して作られた井戸で、径約4mの規模をもつと考えられる。調査で検出したのは、このうちの四分の一のみで他は調査地区外である。本来素掘りの井戸であったのか、井戸枠が抜き去られたものであるのかは、掘形壁の破壊がはなはだしく、また断面形が袋状を呈していたため、上面から約2mの深さまでしか調査できず、はつきりさせられなかつた。井戸内は、廃棄後に投棄された灰の層で満たされていたが、この中に縞状に若干の土器、木片等を含む粘質土が入つていた。全体的にこれらはレンズ状の堆積をしていた。こうした堆積土中より木簡を一括して検出した。他の遺物は少なく、時期決定はむずかしいが、一四世紀代ないしは一五世紀代頃と思われる。瓦器片がみられないことから一五世紀代の可能性が高い。

8 木簡の釈文・内容

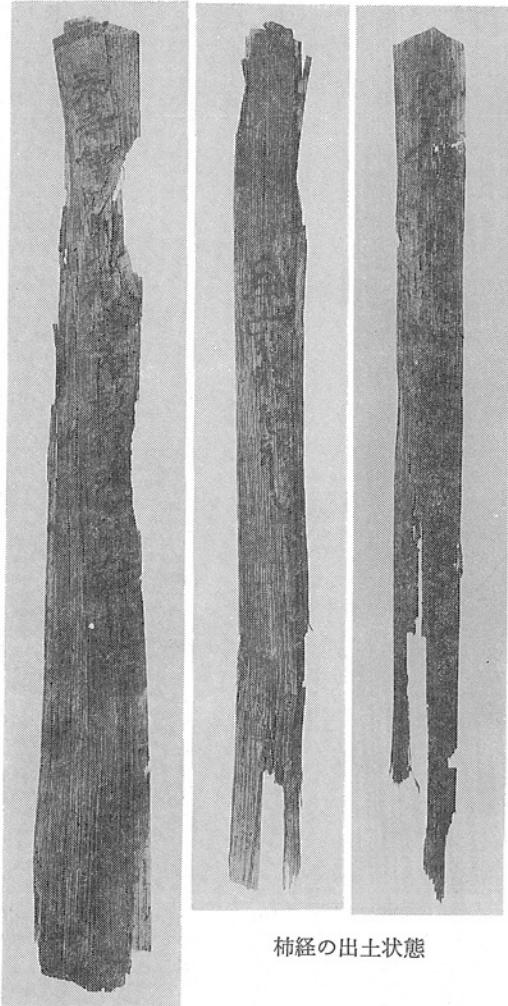
出土点数は二九〇点にもおよぶ。数点の笠塔婆をのぞけば、そのほとんど全部が、頭部を圭頭状にし、經典を書写したこけら經である。完形のものが比較的多く、それらは二一・五cmと二五cm前後の

- (1) 「地藏菩薩本願經灯利天宮神通品第」
 (201) × (14) × 1 061 (130)
- (2) 「如是我聞一時仏在灯利天為母說法尔時」
 (213) × (15) × 1 061 (123)
- (3) 「十方無量世界不可說不可說一切諸仏及」
 (216) × (14) × 1 061 (128)
- (4) 「大菩薩摩訶薩皆來集會證歎釈迦牟尼仏」
 (216) × (16) × 1 061 (127)
- (5) 「此世界他世界此國土他國土如是來集」
 (216) × (16) × 1 061 (127)
- (6) 「能於五濁惡世現不可思議大智慧」
 (216) × (16) × 1 061 (126)
- 「摩訶薩沙觀是一切諸仏菩薩及天龍鬼」
 (214) × (15) × 1 061 (126)
- 「力調伏剛○○衆生知苦樂法各遣侍者問訊」
 (214) × (16) × 1 061 (126)
- 「尔時釈迦牟尼仏告文殊師利法王子菩薩」
 (214) × (16) × 1 061 (126)
- (7) 「世尊是時如來含笑放百千万億大光明雲」
 • 「大愛敬鬼鬼王如是等鬼王皆來集會」
 (209) × (16) × 1 061 (120)
- (8) 「所謂大円滿光明雲大慈悲光明雲大智慧」
 • 「王行病鬼王○○鬼王慈心鬼王福利鬼」
 (217) × (17) × 1 061 (123)
- (9) 「光明雲大般若光明雲大三昧光明雲大吉」
 • 「惡目鬼王敢血鬼精氣鬼王敢胎卵鬼」
 (216) × (16) × 1 061 (122)
- (10) 「南無地藏菩薩」
 90 × 22 × 1 061 (106)
- (11) 「○一卷十一決○明日十三日 順寫布施六十一」
 × ○一卷十一決○明日十三日 順寫布施六十一
 (215) × (14) × 1 061 (106)
- (12) 「尔時大○智○如來受十方諸梵天王及十」
 256 × 16 × 1 061 (104)
- (1) (1)に「地藏菩薩本願經」、(9)に「地藏菩薩本願」とみえることを
 手がかりに、一部、こけら経の配列を復元することができた。それ
 は(1)～(9)の部分で、「地藏菩薩本願經」(上下二巻)、「大正新脩大藏經」
 第一三卷七七七～七九〇ページに収める)の巻首と、「忉利天宮神通品
 第一」である。
- 元興寺極樂坊のこけら経(卒塔婆経とも)は、本堂(曼荼羅堂)の解

体修理時に天井裏などから発見されたもの、境内各所の発掘により

発見されたものなど、およそ三万五千本余あり、そのうちには二〇本で一把のもの、二〇本一把とはならないが明らかにセットとなつてゐるもの、などに分類されている(『日本仏教民俗基礎資料集成六』元興寺極楽坊Ⅵ』中央公論美術出版 昭和五〇年)。

(1)～(9)は密着し一塊りとなつて出土したものの一
部であり、復元するに二〇本で一把であつた可
能性が大きい。(1)～(3)は表面のみに
書写しているが、(4)～(9)は表裏ともに経文がみ
える。経文の配列お
よび表裏の判断は、復元結果にもとづく。



柿経の出土状態

地藏菩薩本願經卷上⁽¹⁾

唐于闐國三藏沙門實叉難陀訳

忉利天宮神通品第三

(3) **如レ是我聞。**一時仏在一切利天。為レ母說法。余

時十方無量世界不可說不可說一切諸佛。
及大菩薩可至。皆是諸佛。寶。文。印。身。

及大菩薩摩訶薩 皆來集會 讀三歎稱迦牟尼
能於三五獨惡世。現二不可思議大智慧伸通

之方。⁽⁶⁾一調伏剛彊衆生。知苦樂法。各遣一持者。

問二 訊世尊。是時如來含^レ笑。放_ニ百千万億大

光明雲。所謂大圓滿光明雲。⁽⁸⁾ 大慈悲光明雲。

大智慧光明雲。大般若光明雲。大三昧光明

雲。大吉——(この後、三三二字省略)——惡目

鬼王瞰血鬼王。瞰精氣鬼王瞰胎卵鬼王。⁽⁷⁾行

病鬼王。搜毒鬼王。慈心鬼王。福利鬼王。大愛
鬼王。三口。三舌。三目。三耳。三鼻。三足。⁽⁶⁾

敬鬼王如_レ是等鬼王 皆來集會
尼弘告_レ文殊而刊去王子菩薩₍₅₎河薩。女観

是一切諸仏菩薩。及天龍鬼神。⁽⁴⁾此世界他世界
月夜等。又列的有淨三。菩薩摩訶薩。沙欝等。

此国土他国土。如是今来集会到忉利天。

(後略)

途中省略した部分は、こけら経一〇本に表裏
ほぼ一七字を配したと仮定すれば、はじめの三

本をあわせて、計一九本と推測できるだろう。さらに巻首の一本に統いて、「唐子闡國三藏沙門実叉難陀訳」と記す一本があつたとすれば（裏面はなし）、合計二〇本で一把であったと推定できる。

元興寺のこけら経では、二〇本一組の根元をこよりでゆわえた例がある。扇面のように広げて読経し、表が終れば裏返して読んだらしい。本例ももとはこよりでゆわえられたまま、放棄されたものと推測される。

(1)はこけら経写経に関わるものである。また「×七月廿四日 地蔵講經 加賀公分」とするものがあり、こけら経の写経や転読にかかる内容をもつ。

(2)は経典名を把握していないが、下部の「三 十一」は、例え三卷の十一番目というように、こけら経の順序を示したものと解される。元興寺にも同様の例がある。本遺跡のこけら経にも、ほかに「地上 四」と下部に記すものがあり、「地藏菩薩本願經上巻」の第四番目の意味かと思われる。

(3)は五輪塔状に左右側刃を刻んだ笹塔婆である。以上に示したもののはかに、五輪塔の絵、僧侶の顔、鳥帽子をかぶった武士の横顔を細筆で描いたものなどがある。地中から出土したこけら経としては残りのよいものであり、木簡学の立場からも種々の考察が可能であろう。

(1~7 中井一夫、8 和田萃)

奈良・藤原京跡

1	所在地	奈良県橿原市木之本町
2	調査期間	一九八五年（昭60）一二月~一九八六年八月
3	発掘機関	奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
4	調査担当者	岡田英男

- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙・都城跡
 6 遺跡の年代 七世紀末~八世紀初頭
 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

香久山の西麓において一九八五年の第四五・四六次調査に統いて第四七・五〇次（西）調査を行つた。第四五・四六次調査地を合わせた総面積は二〇〇〇〇m²で、ほぼ藤原京左京六条三坊の東北坪と東南坪に当たる。このうち第四七・五〇次（西）調査地は六条三坊の中心部および東北坪西南部に当たる。両調査地は東西に接しており、面積は合わせて四〇〇〇m²である。

第四五次から第五〇次までの調査の所見を簡略に述べると、遺構は古墳時代から室町時代まであり、そのうち藤原宮期はA・B二時期に大別できる。

A期は道路と区画の堀を中心とした時期で、東三坊坊間路、六条間路、坪の周囲を限る堀、坪を東西あるいは南北に二分する堀などがある。